

ランとも 都内で18、19日「RUN伴」

認知症のある人や家族らがたすきをつないで日本を縦断する「RUN TOMO—RROW 2016 (愛称・RUN伴=ランとも)」が18、19の両日、都内を通過する。初めて参加する文京区内のチームは「ぜひ沿道で応援を」と呼び掛けている。(竹上順子)



「RUN伴」への出場を前に張り切る女性(前列中央)と介護施設「ユアハウス弥生」のスタッフら=文京区弥生で

認知症の人と たすきつなぐ

「誰が介護されている人か分からなかったね」。そんな声が沿道から聞こえる。本部スタッフの三浦亜希子さん。認知症の人を介護する人も、みんなで楽しめるという。介護者同士のつながりが生まれ、地域の人たちは認知症の人と触れ合う機会になっている。

文京区の介護施設「ユアハウス弥生」を利用して、認知症の女性(へこ)は、幼稚園児のひ孫と施設のスタッフ、区地域包括支援センターの職員ら十二人で出る。

女性は「走れるか心配だけど楽しみだね」。施設のスタッフで介護福祉士の金山峰之さん(へこ)は「本人や家族、専門職が街に出ることと認知症のイメージを変えたい。ぜひ見にきて」と力を込めた。このチームは十八日、埼玉県久喜市―さいたま市―品川区のルートに参加する。

首都圏ではこのほか、十

八日に茨城県取手市―墨田

区―品川区、十九日に品川

区―町田市―神奈川県藤沢

市のルートで行われる。詳

しいルートや通過予定時刻

は、前日までにRUN伴の

ホームページに掲載。チャ

リティーTシャツの通販も

ある。ネットで「RUN伴

2016」を検索。

翌年からは各地に実行委

員が生まれ、ルートも参加

者数も年々増加。六回目の

今年は、初めて北海道から

沖縄県までルートがつなが

る。七月から十一月にかけ

て約一万一千人が参加、う

ち一割が認知症の人とみら

れる。車いすの人やゆつ

り歩く人、見事なフォーム

で走る人などさまざま。

このイベントは、認知症

になっても安心して暮らせ

る地域づくりを目指し、

NPO法人「認知症フレンド

シップクラブ(武蔵野

市)が主催。三人以上で一

チームになり、走ったり歩

いたりする。初開催の二〇

一一年は、北海道内の三百

人で約百七十人が参加し

た。

文京のチーム参加